



# アクションプラン

Invitation Programme  
for Japanese Teachers

グループA



# 教育は様々な政策をつなげる動力である



廃校になった学校が地域の図書館として生まれ変わりました。急激なスピードで少子化が進む韓国は地域の特色を出すために様々な工夫をしています。私たち日本にとっても避けては通れない問題の一つです。政策を待つのではなく、教育が政策をつなげる動力になるという考え方を今後の教育活動の基盤にとり入れていきたいと考えました。

# 現場に指導書はない 我々は世界遺産を授業でどう生かすか



多様化する世界において文化間の葛藤と嫌悪感を克服するために、教師の役割は大きいと感じました。地域社会連携型遺産教育を行うことで子どもたちに一つの遺産の中にある様々な価値の共存に気付かせることができます。解釈に正解はありません。解釈に問題があるのなら、それは教育の問題だということを我々は自覚するべきだと考えました。

2025年1月に韓国の教職員の方々を本校にお招きする予定です。子どもを取り巻く様々な課題へ対応するため、地域と家庭と学校の連携で育てていく「チーム学校」としての様子を少しでもお伝えできれば嬉しいです。お待ちしております！！



# 2024 韓国レポート<その1>

## 所属校の生徒に紹介！

◇公立図書館

◇学校給食

◇授業の様子



# 日本の文化『江戸の鳶木遣(とびきやり)』を 韓国の高校生も一緒に歌ってくれた！

冒頭『真鶴』  
の部分  
(ことわざ  
「鶴の一声」)

歌詞の意味  
「みんな、  
やるぞー！」



「おお、  
やろう！  
やろう！！」



手締め



## <今後の計画>

- ◇校内研修会第2弾を企画！7月末に韓国高校生と東京で再会。その経験も共有したい。
- ◇今後、日本と韓国の生徒と一緒に『江戸の鳶木遣』を歌い、気持ちを一つにしてみたい。
- ◇9月に駒込天祖神社神幸祭を取材します！ ◇12月に再度釜山訪韓予定！
- ◇現代の朝鮮通信使としての役割を教育界から 韓国と日本の両教師から発信だ！



# 日韓両国の生徒たちの未来のために！

- a: 韓国の高校生と一つの作品を作り上げ、また交流を図れたこと。  
これ以上の貴重な経験はありません。
- b: 1年に1回の韓国での研修旅行の実施。  
研修旅行の半分以上の行程を「生徒間交流」に充てる。
- c: ①月1回のハングル語講座の実施 ②学期に1回のオンライン交流の実施  
③年1回の韓国研修旅行の実施





# 韓国と日本の交流の拡大について

## 【韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動について】

### ①ホームビジット

今回の韓国滞在で一番印象に残っている活動がホームビジットである。訪問先のチルウォン高校での交流後に、日本教職員2～3人が一つの班となって、教職員・生徒の家庭を訪問し、夕食を共にしながら、日韓の文化・生活などについて語り合いながら親睦を図るものである。韓国的一般家庭に行くことができ、韓国の日常生活を知ることができて本当によかった。プログラムは盛り沢山の企画が入っているため、各所を訪問した際に、じっくりと教職員や生徒と話す時間はないため、約3時間、大学受験・音楽・ドラマ・日常生活など、幅広く話げできたことは貴重であった。韓国には観光ですぐに行けても、実際の家庭に行くことは難しい。日韓の交流でホームビジットをもっとやっていると日韓友好につながるのではと思った。

### ②チルウォン高校での文化授業

訪問先のチルウォン高校で、日本教職員が1クラス5人づつ分かれ、日本の文化について50分間授業を行った。私のクラスでは、七夕・折り紙・盆踊り・和楽器について授業を行った。私は目黒区立小学校2校の和太鼓部で和太鼓を指導しているため、部で使用している和太鼓・拍子木・チャンチキを持参し、盆踊り・楽器の説明後、生徒全員と東京音頭に合わせて演奏体験を行った。生徒全員が演奏をできるように、ワンフレーズごとに交替していき、全員が演奏を体験できた。驚くことに、日本の伝統楽器は全く知られていなかった。韓国にも伝統楽器があり、授業や行事で演奏することなので、今後は伝統楽器の演奏などで交流していければと思った。

### ③チルウォン高校での高校生との自由懇談会（地域問題解決プロジェクトの生徒活動事例共有及び質疑応答）

訪問先のチルウォン高校で、生徒5～6人の班に日本教職員1人がつき、地域問題解決プロジェクトについて生徒と意見交換を行なった。私の班では地域河川汚染がテーマで、生徒が街でデモ行進をして問題をアピールしてきたこと等の説明を受け、それに対して、自分から問題提起（根拠法、所管官庁、情報公開請求等）をしながら意見交換を行なった。翻訳アプリや英語を通して、生徒と直に40分間話することができたことは貴重な経験であった。韓国は日本より環境問題に積極的な生徒が多く、日本も見習っていかなければならないと思った。また、雑談の中で、日本に関心のある生徒が多く（アニメ、J-pop、渋谷等の日本の街）、日韓の文化面での親近感は高いと思った。



朝鮮通信使歴史館にて



チルウォン高校での給食



ホームビジット先にて  
(一番左)



文化授業にて（和楽器を  
紹介・一緒に演奏）



大江戸原町太鼓の児童（伝統楽器交流を推進）



韓国伝統楽器（訪問先の学校にて）

## 【日韓交流の今後の具体的な取り組みについて】

### ①日韓伝統楽器交流

- ・韓国の学校でも韓国伝統楽器を祭で演奏することなので、日本と韓国の伝統楽器の情報交換を行ない、交流を深める。
- ・自分の指導する目黒区立小学校2校の和太鼓部（大江戸原町太鼓、大江戸烏森太鼓）の演奏動画・写真を送る。
- ・チルウォン高校、密州小学校、芝正小学校での伝統楽器の演奏動画・写真を送ってもらい、和太鼓部の児童に見せて韓国伝統楽器に興味を持たせる。
- ・伝統楽器を通して相互に関心を持っていく中で、インスタグラム、ユーチューブ等を通して、双方の学校生活・一般の生活で知りたいことを交換し合う。
- ・東京都にも韓国伝統打楽器（チャング）の教室があるため、チャングを自らも習い、韓国伝統楽器への理解を深める。

### ②日韓交流クラブでの交流

- ・勤務校の日韓交流クラブで、児童に韓国について教えたり、一緒に調べたりする中で韓国について児童が関心を高めるとともに、日韓の児童・生徒との交流を深めていく。

### ③ホームビジットした家庭と交流継続（カカオトークを中心に実施）

### ④知り合いになった韓国の方々と交流継続（メール、LINEを中心に実施）

（韓国ユネスコ委員会、韓国教育部、韓国教職員の方々）

### ⑤日韓交流促進のための自分自身の行動

- ・韓国語で交流ができるように語学学校に通う（語学の壁の克服）。

### ⑥目黒区内での韓国の紹介

- ・目黒区立小学校複数校、教育関係機関において、教職員・児童に今回のプログラム内容を説明し、韓国に対する理解・関心を高めてもらう。



印象に残っていること

1 FOOD

2 PEOPLE

3 EVERYTHING ELSE

韓国のことはほとんど知りませんでした。ただ、知りたいと思い、今回プログラムに応募しました。今では、以前よりずっと韓国のことに関心があります。日常生活においても、韓国に関連したニュースに気が付くようになったと思います。さらに、韓国の主張等を以前より素直に受け止めることができているように思います。





## 今後やりたいこと

### 1 生徒と共有

- ① 学年集会でプレゼン
- ② 授業でプレゼン
- ③ ユネスコ部でプレゼン

- ◆ 自分の学校や地域との共通点がある
- ◆ 日本と韓国の交流の歴史を知り平和について考える

### 2 交流

- ① 知り合った方とやりとりを継続
- ② ユネスコ部で生徒と理解を深める活動をし、文化発表会（文化祭）で発表





# 朝鮮通信使歴史館



朝鮮通信使は室町時代から江戸時代にかけて、朝鮮から日本へ派遣された外交使節団であるが、今回の韓国訪問もお互いの文化交流という面では非常に似た側面があると感じた。朝鮮通信使を通じて、歴史だけでなく、多文化の理解にも適している。

## 今後の取組

小学6年生

社会「世界のなかの日本とわたしたち」

小単元：日本とつながりの深い国々（韓国）

- ・韓国と日本が室町時代から文化の交流を続けてきたことから、現代のお互いの文化について考える機会となる
- ・韓国の写真や学校の様子などを紹介して、日本との違いに気づくようにする
- ・自分たちの文化でぜひ伝えていきたいものを考える
- ・韓国の小学生に向けて、ぜひ紹介したい文化について、英語を使って伝えられるようにしたい
- ・神戸市立博物館にもある、朝鮮通信使兵庫津上陸宿割図なども参考にしたい



## 具体的なプロセス

- ・6年生の歴史学習から、韓国との関係を整理しながら学習をしておく
- ・韓国の家庭や学校の写真、朝鮮通信使の写真などを準備しておく
- ・韓国の学校、学生との交流が可能かどうか調整する



## 韓国滞在で得た経験と印象的な活動



文化交流



学生との探究討論と対話



ホームビジットと  
韓国家庭料理体験



新しく出来た日韓の教職員仲間



韓国の先生方とリアル・  
サムギョップサルで歓談

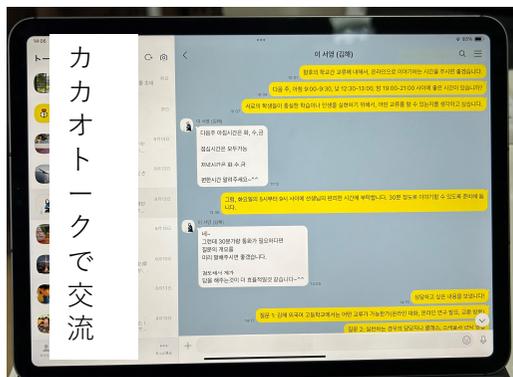
世界遺産について学習



# アクションプラン

## 計画

1. 韓国で知り合った先生方とフォローアップ交流を行い、実現可能な交流形態を模索する。
2. 国内の先生方とネットワークを維持し、今後の活動についてお互いに報告し、コラボ可能なものがあれば計画する。
3. 韓国交流の準備を学内で本格的・継続的に企画する。対象クラスや学年などを検討する。



## 具体的な行動と成果

1. 韓国の先生とは翻訳アプリ、英語、または日本語で交流し、お互いを知ることが出来た。実現可能な交流形態について相談し、2024年の9月、2025年の3月からそれぞれハイブリッド交流、対面交流を計画中。
2. SNSでその後の取り組みや事後研修について情報交換を実施。韓国とのオンライン・オフライン交流、訪問交流でコラボ可能な企画や実施形態を相談中。



3. 国際交流の時間の確保、共同探究活動、有志での国際交流サークルの立ち上げなどは計画済み。対面交流の実現可能性を今後探っていく（予算・時期・HSなど）。

←交流予定校の学校案内を見ながら年間行事を比較



# 韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動について

チルウォン高校での授業見学等が最も印象的だった。施設・設備が最新というだけでなく、一般生徒も特別支援の生徒も、自分に合った学習を受けていた。生徒一人一人が生き生きとしていて素敵!! ✨

韓国の生徒を前に直接日本文化を紹介する授業では、生徒の反応も良く、非常に協力的であった。必ず返事をしてくれるので助かった。

会ったことのない先生方と共に授業準備をするのは大変でもあったが達成感も得られた。



# 今後の取り組みとプロセス

## 🔄 得られた経験を様々な場面での共有

勤務校だけでなく他校や、ユネスコや政府関係機関においても要請に応じて協力したい。

## 🎵 日本や韓国の学校との交流

両国の中高校生は互いの文化に憧れる傾向にある（アニメ、音楽など）。実際に短期留学を通じて数か月間でも互いの国で暮らし、アルバイトをしながら学ぶことはできないだろうか。短期留学を行っている学校もあるが、本校でも実現出来たら生徒たちの経験も増える。幸せ村学校、チャンウォン芸術学校、チャンウォン自由学校に訪問した際に、生徒数の減少が問題になっていると伺ったので、留学生受け入れにより問題解決ができないだろうか。





# a. ミルジュ初等学校への訪問

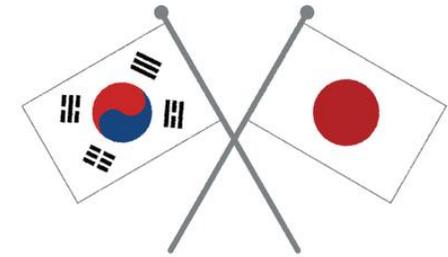
- ・「協力」「挑戦」「幸福」を教育目標に掲げ、課題解決能力を育成する学年別の**プロジェクト学習**や、**生態転換教育**などの探究活動が充実しており、育てたい人間像が明確で、教育に対する意識の高さが見られた。
- ・“**学校とは幸せであたたかい所**、”ということを念頭に置き、遊びを重要視し、一日の中に**「遊びの時間」**を設定することで、子どもたちが伸び伸びと遊んだり、学んだりしている姿が大変印象に残っている。**成功体験**を増やしていくという教育にも魅力を感じ、**運動場の改革**に目をつけた点も興味深かった。
- ・授業の形態に合わせた施設、設備などの教育環境も整っており、**教育費無償化**などもあわせて、国や行政が教育予算を惜しみなく投入していることが伺えた。



## b. 韓国文化についての探究授業



### c. 具体的なプロセス



STEP1

総合的な探究の時間を利用

STEP2

まずは私たちの国“日本”を知ることからスタート

STEP3

韓国の文化について調べ学習を行う

→ 今回のプログラムで学んだことを生徒に共有

STEP4

日本文化と韓国文化の比較をさせる

→ 韓国の高校生とのオンライン交流

STEP5

異文化理解につなげる



# 訪問記録・学んだこと



- ・ VRを用いた科学の授業（高校）
- ・ 行政と協力して作り上げた校庭（小学校）

子どもたちが楽しく学べる環境が整備されている。

温かく迎えてくださった  
ご家族に感謝。

勉強のことから兵役まで、  
話題盛りだくさんの交流。



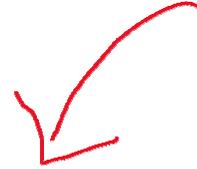
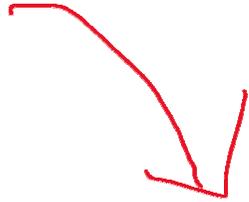
体育館を改装した  
地域の図書館。  
工夫を凝らした空間づくり。



韓国の人々や文化、教育、歴史を知る → 身近に感じる／日本とは違う  
⇒ 自分たちの現状に目を向け、考えてみる 「より良い学校をつくるには？」







a.

①チルウォン高校の課題解決授業

②ウポ湿地など地域を教材にした地球規模の課題解決へのアプローチ

b.

①チルウォン高校の授業を参考に総合探究活動を企画

②pink T-shirt day を実施

c.

b-①

総合探究委員になる→内容を提案→本校で実施

→結果や内容を友好校やチルウォン高校など韓国やアジアの国で共有

b-②今年度12月の人権週間に向けて複数の分掌とタイアップして実施

→友好校やチルウォン高校など韓国やアジアの国で共有





# 印象に残っている経験と活動

## 文化授業【ミルジュ小学校】

- 小2を対象に日本の文化授業を実施
- あやとり、こま、めんこ、けん玉、お手玉  
新聞ジャンケンと一緒に楽しんだ



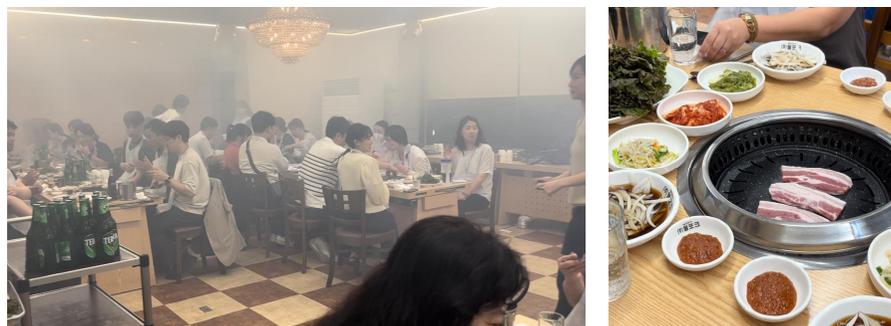
- ◎言葉が通じない場面でも、楽しく交流できた
- ◎遊びを通じて、文化を学べる(教える)ことができた
- ◎どの国でも、子供たちの笑顔は共通！

## サムギョプサル事件！？

日本と韓国の教員ら約90名で、交流晚餐会にて  
韓国料理であるサムギョプサルを食べに！

焼き始めてしばらくしたら、部屋中に煙が広がり  
火災報知器のサイレンが鳴り響いた！！

エプロンをしたまま一時避難し、その後美味しく頂いた



◎予想外のプチハプニングは、

笑いと共に忘れられない思い出に・・・

# 今後の取り組み

## 校内研修【教職員】

夏季研修にて、報告会を実施

各訪問機関・食・文化などについて、  
感じたことや学んだことを報告



実施後の感想の一部

・自国だけでなく、他国にも目を向けたり知ったりすることが大切だと思った。

・テレビなどでは分からない家庭の様子や学校の様子が知れて、楽しく韓国のことを学べた。

## 異文化理解授業【児童・生徒】

全学年に向けて異文化理解授業の実施  
を計画中

小1～小4（低学年・中学年）

小学生の様子や学校の様子など、日本の以外の国のことを知ることをねらいとする。

小5～中3（高学年・中学生）

「平和」をテーマに、自分たちができることとして、日本以外の文化を理解し、日本との違いや共通点を見つけ、尊重や興味を持つことをねらいとする。



# 朝鮮通信使歴史館



## 世界記憶遺産

豊臣秀吉の「文禄・慶長の役」以降、途絶えた国交回復・平和構築と文化交流のために行われた。

ストーリー

## 韓国側からの視点



韓国史上最も悲惨な壬辰戦争  
耳塚・鼻塚など

正しく理解した上での  
学習の題材として



## 平和学習・国際交流・国際理解の題材

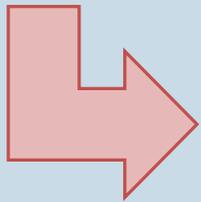
- 日韓相互の立場から歴史をみる視点に
  - ・痛ましい歴史の後、日韓の平和を築いた
- 世界記憶遺産への日韓共同申請
- 各地に残る資料・ゆかりの地・関連行事



# 「朝鮮通信使」を伝えたいことを中心として

## 校内研修

- ストーリーも含めた歴史理解を深めることで、歴史学習における教材観への変革、それが指導観へも変革を促し、授業の質の向上につながる。
- 総合学習の題材として、「平和学習＝原爆」だけでない新たな視点の獲得。また、実際に総合学習の題材として扱う場合には、各地に残る資料・ゆかりの地・関連行事をきっかけに、日本各地・韓国内の地域との交流や、相互の立場から見ることで国際理解・交流のきっかけになる。
- それ以外の題材に対しても、多面的に見ることへの気づきになる。
- こういった発信によって、実際に見ること・体験することによっての教員の質の向上、またユネスコ活動に対しての興味関心を高めることにもつながる。



**8月に実施予定  
その他、機会があれば**



## 2024日本教職員韓国招へい研修

これから挑戦したいこと！

### 研修で得たものは？

#### 1. 体験を通じた学び

オンラインでつながることができる今だからこそ、対面での価値ある学び



#### 2. たくさんの出会い

すばらしい先生方との出会い  
新しい自分との出会い



- この体験を同僚や生徒に伝える
- 日本の文化（特に文学）を海外の人に伝える授業を考えて、実践してみる
- コミュニケーション力を磨く（ユーモア、伝えたい内容のインプット、語学力向上）



2024. 8. 11作成



# 持続可能な学校づくり ～韓国研修における2つの事例を参考に～

①今回の研修において印象に残ったこと⇒環境教育に関する先進的な施策の実施

## ●グラウンドの緑地・ビオトープ化

ミルジュ小学校では、従来の砂地のグラウンドを草木や水場などで覆われた「校庭」に改造していた。校庭は子どもたちの遊び場という役割だけでなく、昆虫などの生物が共生する「ビオトープ」の役割をも果たしていた。



ミルジュ小学校の校庭の様子

## ●環境保全について学ぶ機会の充実

訪問した慶尚南道では、教育庁が主体となり、ラムサール条約認定湿地のウポ湿原などを開催地とした環境教育を行っていた。また、教育庁はプログラムをただ主催するだけでなく、プログラムをより充実させるために講師陣の研修も行っているようであった。



画像左:ウポ湿原の様子  
画像右:ウポ湿原内の資料館の様子

# 持続可能な学校づくり

～韓国研修における2つの事例を参考に～

## ②勤務校での実践とそれに向けての計画

### ● 学校所在地の周辺環境を活かした環境教育の実践

勤務校は大学キャンパス内にあり、街中にあるにもかかわらず周囲には池や森といった自然が残っている。そのため校内にも水鳥をはじめとした野生動物がみられる。しかし、周辺の人口増加や気候変動などの要因により学校所在地周辺の環境も変化していることが予想される。そこで、「学校と周囲の環境を持続可能な物にするためにはどうすればいいのか」という発問のもと、環境教育を実践していきたい。

### ● 体育×環境教育 ～受動的になりがちな長距離走を主体的に～

上記の問いを解決するためには、前提として周辺環境の実態把握が必要である。そこで、体育の時間中に、学校周辺環境の実態調査を兼ねた「長距離走」を実践したい。なお、長距離走は本校で実施する体育の単元の中でも主体性を引き出すのに苦慮している単元の為、環境教育の要素を入れることで生徒の主体性を引き出すという効果も期待したい。

#### ・アクションプラン





a. 韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動について

- ・朝鮮通信使歴史館訪問（まったく知識がなかったので）、世界遺産についての本

b. 今後どのような取り組みを始めたいと思っているか、具体的にやりたいことや計画について

- ・8月26日（月）にノンサン高校の生徒とオンライン交流を行う。その前に本校の生徒に今回のプログラムに参加して学んだ韓国の今についての紹介レクチャー（韓国のカフェ文化、高校生の勉強量、生徒様子）を行い、交流に弾みをつける。
- ・11月に千葉県高教研ESD部会の教員研修があるので、経験共有を行う。
- ・千葉県高教研ESD部会で実施する生徒研修会（次年度）で「世界遺産」についてのグループワークを考えたい。
- ・美術の授業で韓国と日本がつながる東洋美術史を取り入れたい。
- ・ホームビジットをさせてもらったチルウオン高校の生徒とは個人的には連絡を取りたい。

c. 「b」にむけた具体的なプロセスや必要な対応、取り組みについて

- ・管理職への報告と計画、資料作り、韓国史の勉強（ハングルも頑張りたい！）







合唱



文化交流授業



家庭訪問



閉会式の団長挨拶

# 持続可能な未来(=平和)のために私にできること

- 研修での経験をもとに、生徒と平和について考える授業(11月)
- 訪問先のご家族との交流  
SNSの交流だけでなく、もう一度遊びに行く。
- 全国の先生方との交流、情報交換
- 韓国の政治・文化・言語について自主研修  
新聞+「朝鮮通信使」についてさらに学んでみる。
- 私自身の体験や学びを生徒に伝えていく

相互の生活と風習を知り、自己の無知と偏見に気づく





# 印象に残った活動や経験



## ① 各施設で出会った方々のお話

今回、高校や小学校、図書館に自然保護施設など様々なところを訪問させて頂きました。行く先々で聞かせて頂いたお話は、とても印象に残っています。国から予算は得られるが、その予算をどのように使うのか議論し、地球市民の育成、探究と体験活動の充実、VRからAIなど先端技術を取り入れた授業の実施に力を入れることにした学校。「地域の嫌われ者」と言われていた学校が数名の教師と保護者とで話し合い、児童の笑顔あふれる「地域の中心」とまで言われるようになった学校。施設の美しさや取組に圧倒されたのはもちろんですが、そこでより良い教育を届けようと自分たちと同じように日々奮闘され続けている皆さんと出会い、聞かせて頂いた経験に基づくお話から多くを学び、感動し、また明日から頑張ろうという元気をもらいました。

## ② 韓国の英語能力の高さ

プログラムに参加する2年前から、本校生徒と韓国の生徒とで交流プログラムを実施していました。プログラム中、韓国の生徒の英語能力の高さとプレゼンテーション能力の高さに驚かされ、本校の生徒達はとても良い刺激を得ていました。なぜそこまで英語の力があるのか疑問でした。今回のホームビジットでは中学校で英語の先生をされている方の家を訪問させて頂き、その先生と娘さんから詳しくお話を聞くことができました。どのような生活で、どのような授業を考え、実践し、振り返っているのかなどとても勉強になりました。早速、2学期からの指導案を修正し、授業スタイルを変えてみることにしました。





## 今後の取組



### ① 生徒への発表(済)

帰国後すぐ、自身の授業にて生徒達に研修発表をしました。どのような場所を訪問したのか、どんな人と出会い、どんなことを学んだのかについて発表しました。韓国に関心を持つ生徒は多いことから、発表終了後も多くの質問をもらいました。

### ② 校内研修発表(2学期予定)

先生方には①の発表内容に合わせ、学校・教師として今後どのような取り組みをしていく必要があるのかについて発表をしていく予定です。運動場を中心とした学校改革実践については大きなヒントを頂いたように思います。運動場をというわけではなく、学校にあのような生徒の活動の中心となる場を設けたいと管理職と企画を練っています。

### ③ 市・県での研修発表(2学期予定)

各教育委員会から研修発表の要請をもらっています。市や県の先生方と今回の学びを共有していく予定です。

### ④ 韓国の学校との交流会と姉妹校づくり(2学期予定)

今回訪問した学校の生徒さんから本校生徒との交流依頼をもらいました。まだ生徒同士が相談中ですが、形にしていきたいです。またACCUさんから紹介して頂いた別の学校と夏の間に関係研修を開きました。2学期に生徒同士の交流を企画し、9月から実践予定です。ゆくゆくは姉妹校協定をと話しています。





## ✓ 韓国滞在中に印象に残っている経験・活動

- ・ 韓国（外国）における授業や教育活動の見学・交流
- ・ 日本，韓国の教職員団との交流・連携
- ・ ホームビジットの交流
- ・ ユネスコの取り組み（世界遺産，環境保護）

## ✓ 今後どのようなことをやりたいのか？

- ・ プログラムでの見聞を教材化→高校地理の授業で
- ・ 総合的な探究の時間→外国の生徒との協働探究プログラム
- ・ 修学旅行→探究中心の修学旅行へ，国内だけでなく海外へ
- ・ ホームビジットの受け入れ先→日本へ来る外国の方々へ



a.ミルジュ初等学校の、  
地域に開かれた校庭が非  
常に印象的だった

休日は地域住民の憩いの  
場になっているようだ

b.地域に開かれた学校の  
環境づくりをすすめてい  
きたい

c.学校施設（バラ園や講  
堂）の一般開放日や、本  
校生徒によるパフォーマ  
ンス観覧日を設ける





## a. 韓国滞在期間中に印象に残っている経験や活動について

- ・ **ホームヴィジット**：現在高校1年生の担任を務めており、同学年の生徒さんのお宅に訪問できたことは貴重な経験だった。自クラスの生徒と同世代の生徒さんとの交流を通して、共通点や相違点を見出し、より身近に感じることができた。
- ・ **日本文化授業**：韓国の生徒さんたちに、日本の東京音頭や七夕について説明し、折り紙を一緒に折った。興味を持って熱心に取り組んでくれたことで、日本語・英語・韓国語での交流が活発に行われた。
- ・ **日本の教職員の皆さんとの交流**：自身の教育活動に関する悩みを相談したり、各学校での取り組みを共有できるいい機会になった。

## b. 今後どのような取り組みを始めたいと思っているか、具体的にやりたいことや計画について

- ・ **韓国の学校とのオンライン交流**：同年代生徒との英語・日本語・韓国語を用いて、リアルタイムで異文化交流を行うことで、お互いを身近に感じ合い、文化理解を深めさせたい。  
例) 伝統文化・流行していることなどの相互紹介、言語交換
- ・ **韓国文化体験旅行**：学校訪問や異文化体験を通して、国家ではなく個人として相手を見る視点を養い、グローバルな視野を広げる機会を提供したい。

## c. 「b」にむけた具体的なプロセスや必要な対応、取り組みについて

- ・ **韓国の学校とのオンライン交流の実施**：協力していただける学校を探し、相手校の先生方と具体的な実施方法や技術的な支援を検討し、両校の生徒が参加しやすい環境を整える。
- ・ **文化体験（韓国訪問）**：協力していただける学校を探し、日程等を学校側に提案する。また、希望者が安心して参加できる環境を整え、ただの旅行ではなく、伝統工芸や料理体験などのワークショップなどの深い文化体験ができるよう計画を練る。





# In Korea

## ・チルウォン高校での交流授業と生徒懇談会など

日本の文化交流授業では江戸の鳶木遣という歌（掛け声）を発表。グループの先生方のおかげで、自分自身も知らなかった日本文化を学べた。グループの先生方と協力して練習したことも良い思い出。韓国の生徒たちにもとても楽しんでもらった。

生徒懇談会では、生徒たちの社会課題解決（観光資源をどう増やすか）についての話し合いに参加。中国語と日本語の授業では嬉しいプレゼントもあり、ESD教育の実践発表も大変参考になった。

## ・ミルジュ小学校・知恵の海図書館・チャンウォン芸術学校

- ・世界遺産ワークショップ
- ・日韓教師懇談会



# My Action Plan in Japan

## ◎ 「世界遺産」 についての授業をブラッシュアップしたい

**現在** → 希望者は世界遺産検定を受験 & 朝のSHRで世界遺産クイズ（地歴公民科）  
英会話の授業・・・日本の世界遺産について英語でプレゼンテーション

**これから** → 韓国の生徒と一緒に世界遺産について考える授業や自分たちの国の世界遺産についてのプレゼンテーションをお互いに行うような交流ができないだろうか？  
オンラインでもOK

\* ワークショップ「私の世界遺産」（それぞれの個人にとっての世界遺産を考える）も素敵だった

## ◎ 韓国への修学旅行での交流をさらに進めたい

**昨年度** → 修学旅行で「韓国観光高等学校」へ半日訪問  
東国大学 ソン教授のセミナー「これからの日韓関係を考える」

**これから** → 修学旅行だけの交流でなく、事前事後の交流も含めて。



# 私のアクションプラン

## a) 釜山での日韓の先生方との交流

2月に日本招へいプログラムに参加され、福島・宮城を訪問した先生方とお話できたことがとても思い出に残っている。

## b) 朝鮮通信使について

現在、韓国の高校2校とオンライン交流をしている。その中で、韓国と日本それぞれの視点で朝鮮通信使について調べて発表し合う。

## c) b) についての取り組み

- ① 韓国の先生方との話し合い、発表の段取りを決めていく
- ② 講義、フィールドワークを実施（静岡県にある清見寺へ）
- ③ 校内で話し合い、発表準備
- ④ オンラインでそれぞれが調べたことを発表

